

第一朗読：イザヤの預言(イザヤ 60・1-6)；主の栄光はあなたの上に輝く

答唱詩編：(詩編 72・2+4、7+8、10+11、12+13)；すべての王はあなたの前に膝をかがめ、すべての国はあなたに仕える。

第二朗読：使徒パウロのエフェソの教会への手紙(エフェソ 3・2、3b、5-6)；今や異邦人が約束されたものを受け継ぐ者となるということが啓示された

アレルヤ唱：(マタイ 2・2)；東の空に星を見て、すべてを置いて神を拝みに来た。

福音朗読：マタイによる福音(マタイ 2・1-12)；わたしたちは東方から王を拝みに来た

今日は「主の公現」の祭日です。「公現」は公に現れると書きますが、語源を見ると「外に輝き出る」という意味になります。神の栄光がキリストにおいて外に輝き出てすべての人に明らかにされたということになります。そして同時にそれをまだ知らない多くの人々にわたしたちが伝えていかなければならないということの意味します。

さて、今日の福音で読まれた「占星術の学者たちがイエスを拝みに来る」という物語は、このマタイ福音書でのみ伝えられているものです。占星術の学者たちは「東の方から来た」とありますからユダヤ人ではありません。彼らは星に導かれてユダヤの地に生まれたイエスを礼拝しに来ました。ユダヤ人ではない諸国の民の代表として、彼らの信仰のあらわれとして星を通してイエスのところに導かれたということです。つまり、この学者たちが幼子を訪れたことは、イエスによってもたらされた救いが民族の壁を越えてすべての人にもたらされるということを示しています。

聖大レオ教皇という第45代教皇がおられました。以前は聖レオ一世教皇と呼ばれていました。聖レオは初めて「教皇」「パパ」という称号がつけられた教皇です。その聖レオ一世教皇の説教の中で、キリストにおいてすべての民が救われることを神は前もって決定されていたと言っています。アブラハムに数えきれない子孫が約束されたのはこれらのすべての民であり、その子孫は血筋によってではなく信仰によって生まれるものと述べました。そして、三人の占星術の学者たちによって代表されたすべての民が、信仰によって万物の創造主を礼拝するように願っています。つまり、イエスの誕生はユダヤ人のためだけではなく、すべての人の救いに関わることであるということ今日の福音は伝えているのです。今日のパウロのエフェソの教会への手紙でもそれを伝えています。「福音によってキリストが約束されたものを、異邦人もわたしたちと一緒に受け継ぐのです。また、同じ体に属し、同じ約束にあずかるのです」と言っています。

第2バチカン公会議の教会憲章の初めにはこう書かれています。「キリストは諸民族の光である。公会議はすべての造られたものに福音を告げることによって、教会の上に輝くキリストの光を通してすべての人を照らすことを切に望む」と。わたしたちは毎年、待降節にイエスが生まれた場面を作り、今日の福音と同じように占星術の学者たちを置いて、飾り付けをします。これは多くの人の目に留まり、それによって教会から神の栄光のあらわれが少しでも知られていくのではないのでしょうか。

今日の福音朗読の後半では学者たちがイエスを拝みに行った場面が描かれています。占星術の学者たちは星の光に導かれて救い主を見ました。幼子のいる場所の上に止まったその星を見て喜びにあふれました。学者たちはその星の示すものが救い主のしるしであると知っていたのです。家に入るとマリアと共におられた幼子に対してひれ伏して拝みました。母マリアとともにおられた幼子を見つけ学者たちは喜びに満ちあふれました。

マタイ福音書では「家」としか書かれていませんが、学者たちが星に導かれようやく見つけた「救い主である王」は、王宮の中ではなく、ベツレヘムという小さな町のとある家にいたのだと思います。そして占星術の学者たちは幼子イエスを拝み贈り物をささげ、精一杯の敬意を示しました。この学者たちのように、わたしたちも幼子として来られたイエスに感謝して喜び祝いましょう。

そしてわたしたちがこの喜びを自分たちだけのものとせず多くのの人々と分かち合っていきましょう。キリストを知らない、あるいは信じない人であっても、いろいろな形で神を感じていると思います。一年の初めにあたって神社に初詣をしたり初日の出を拝んだりする人がたくさんいます。そういう人たちも意識していなくても、また毎年の通過儀礼としてであっても、何かしら神の力というものを感じているのではないのでしょうか。

わたしたちがキリストを知らないすべての人々に、救い主がこの世に来られたという福音を告げ知らせていくことができるように、祈り求めてまいりましょう。